

2023年7月27日

各 位

コロナ下での大学生活の実態と学生の価値観

～全体の8割近くが大学生活に満足しているものの、学年により大きな差～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 矢野 一成）では、このたび標記の調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、詳細は2023年8月1日発行の「IRC Monthly」2023年8月号に掲載予定です。

記

【調査概要】

- ・ IRCでは2009年から、県内大学生を対象に、意向や暮らしぶりを把握するための調査を実施している。今回は、コロナ下の大学生活の実態や価値観などを中心に調査した。**大学生活の満足度**は、全体では約8割が入学後の大学生活に満足している（満足+やや満足）。学年別でみると、2回生が最も満足度が高く（86.1%）、大学生活の大半がコロナ下だった3回生（75.8%）、4回生（44.8%）は満足度が低い。
- ・ **満足・不満を感じる時間**を尋ねたところ、「友人との交流」の満足度が高く、1～3回生の約8割が満足に感じていた。最も低いのは部サークル活動で、すべての学年で半数以下となった。4回生だけでなく、1～3回生の満足度も低いのは、コロナの流行によりサークル文化や運営ノウハウが途絶えてしまった影響があるのではないかと。不満を感じる時間は、4回生が他学年に比べて総じて高い。
- ・ **就職希望地域**は、愛媛県内に就職を希望している学生は、県内出身者は7割強であるのに対し、県外出身者は1割弱であった。コロナ前の2019年と比べて、県内出身者の県内就職志向がやや強まっている。
- ・ 「**飲みニケーション**」（お酒を飲みながらの交流）の必要性は、88.9%（「必要だと思う」+「場合によってはあってもいいと思う」）の学生が感じていた。これは、2014年調査の90.2%と同水準であった。そのうち、「必要だと思う」の割合（26.6%）は、2014年（35.2%）から約10ポイント低下している。コロナ下で飲み会の経験が少なかったことが要因と思われる。
- ・ 2023年度はコロナ流行と同時期に入学した4回生をはじめ、**すべての学年でコロナ流行後の入学生**となった。制限が多い生活を過ごし、コロナの5類移行後も、旅行などの非日常にお金をかけるほどの解放感を感じておらず、「飲みニケーション」を必要と感じる割合も低下するなど、コロナ下の生活の影響が残っている一面も垣間見えた。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】株式会社いよぎん地域経済研究センター（担当：三浦） TEL (089) 931-9705

はじめに

IRCでは、県内大学生の意向や暮らしぶりを把握するため、2009年から愛媛大学および松山大学の学生を対象にアンケートを実施している。今回は、コロナ下で過ごした大学生活の実態や価値観などを中心にアンケートとオンライン取材を行った。

アンケートの概要	
時期	2023年4月上旬～5月上旬
対象	愛媛大学・松山大学の学生
方法	・Webアンケートシステムによる配信・回答 ・アンケート内で取材対象者を募集
回答者数	398人
性別	男性194人(48.7%) 女性193人(48.5%) 答えたくない11人(2.8%)
学年	1回生:196人(49.2%) 2回生:65人(16.3%) 3回生:99人(24.9%) 4回生:29人(7.3%) その他:9人(2.3%)
学部	文系206人(51.8%) 理系192人(48.2%)
出身地	愛媛県:178人(44.7%) 四国3県:56人(14.1%) 中国:89人(22.4%) 九州:18人(4.5%) 関東:9人(2.3%) 関西:37人(9.3%) その他:11人(2.8%)
住まい	自宅:132人(33.2%) 自宅外:266人(66.8%)

注:集計は不明分を除く。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、内訳の合計が100%にならないことがある(以下、同じ)。

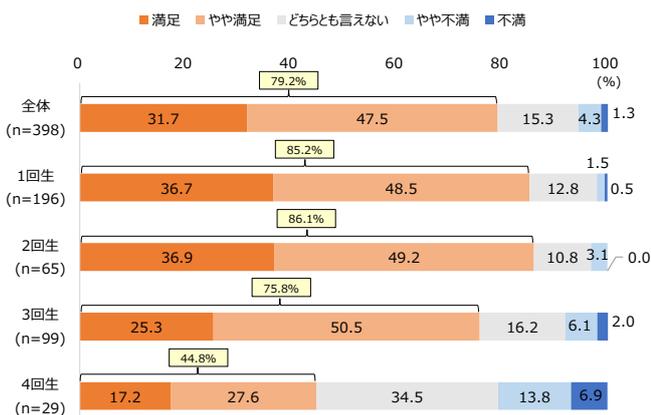
1. 大学生活・人間関係について

(1) 大学生活

A. 大学生活の満足度

大学生活の満足度は、全体では79.2%が入学後の大学生活に満足している(満足+やや満足)(図表-1)。学年別でみると、2回生が最も満足度が高く(86.1%)、大学生活の大半がコロナ下だった3回生(75.8%)、4回生(44.8%)は満足度が低い。

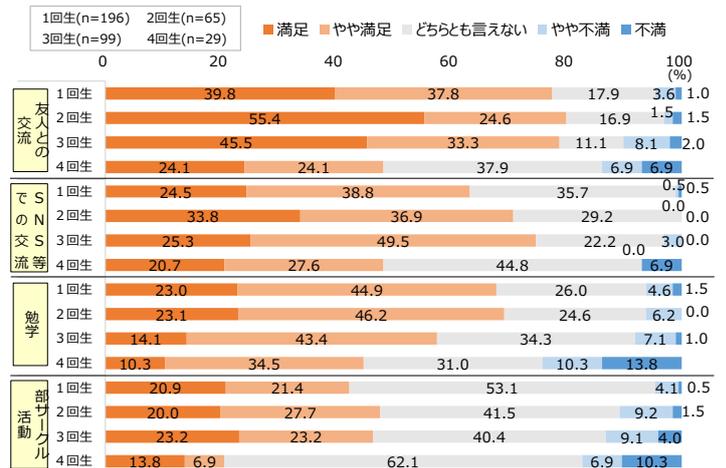
図表-1 大学生活の満足度



B. 満足・不満を感じる時間

満足・不満を感じる時間を尋ねたところ、「友人との交流」の満足度が高く、1～3回生の約8割が満足に感じていた(図表-2)。最も低いのは部サークル活動で、すべての学年で半数以下となった。4回生だけでなく、1～3回生の満足度も低いのは、コロナの流行によりサークル文化や運営ノウハウが途絶えてしまったことが要因の1つと考えられる。不満を感じる時間は、どの項目も4回生が他学年に比べて総じて高く、特に「勉学」や「部サークル活動」は顕著だ。授業や部サークル活動の制限などで、思い描いていた大学生活とのギャップに苦しんだ世代といえる。

図表-2 満足・不満を感じる時間

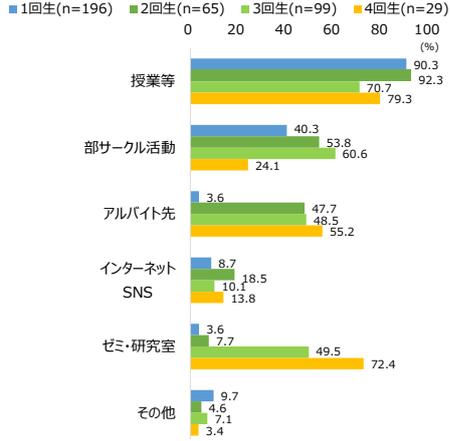


(2) 人間関係

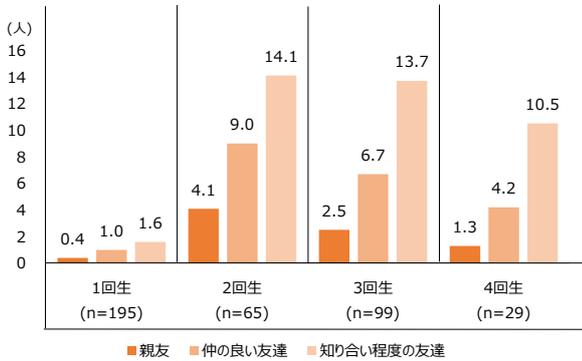
友人と出会った場所は、全学年で「授業等」が最も多い(図表-3)。「部サークル活動」は、1～3回生が40～60%と多いものの、4回生は24.1%と他学年に比べて特に少ない。4回生は限られた交流の機会としての「ゼミ・研究室」(72.4%)が1～3回生に比べて多かった。

友人の数は、「親友」「仲の良い友達」「知り合い程度の友達」のすべてで2回生が最多だった(図表-4)。いずれも学年が上がるほど減少している。コロナの流行は、交友関係の「広さ」のみならず、「深さ」にも影響があった。

図表-3 友人と出会った場所（複数回答）



図表-4 大入学後にできた友人の数の平均



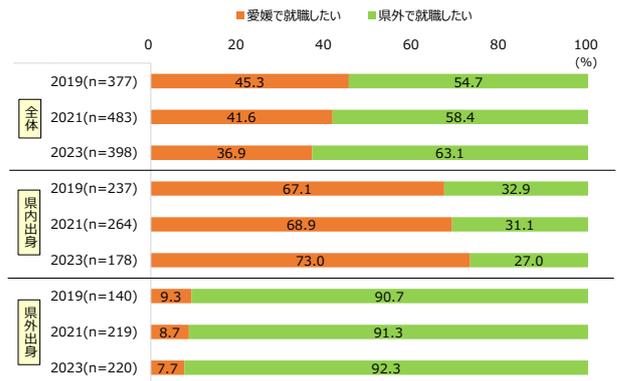
2. 就職について

(1) 就職希望地域

就職希望地域は、愛媛県内での就職を希望している学生は、県内出身者は7割強であるのに対し、県外出身者は1割弱だ（図表-5）。

コロナ前の2019年と比べると、県内出身者の県内就職志向がやや強まっている。

図表-5 どこで就職したいか

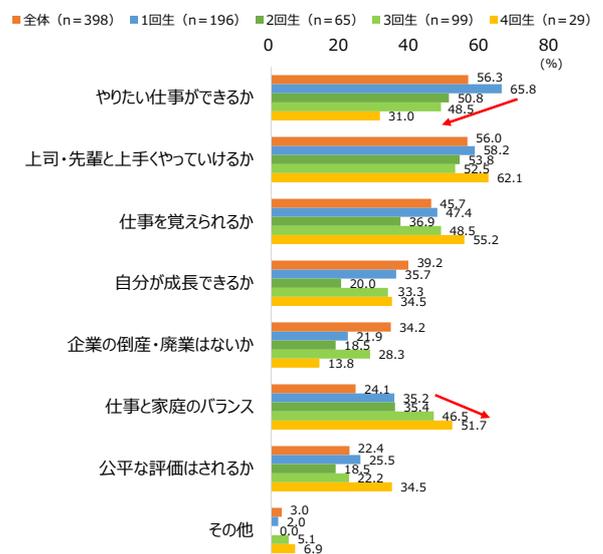


3. キャリア観について

(1) 働く上で不安なこと

働く上で不安なことは、全体では「やりたい仕事ができるか」(56.3%)「上司・先輩と上手くやっていたりできるか」(56.0%)が多かった（図表-6）。学年別でみると、「やりたい仕事ができるか」は1回生が65.8%で、4回生が31.0%と、学年が上がるにつれて低下している。一方、「仕事と家庭のバランス」は1回生が35.2%で、4回生が51.7%と、学年が上がるにつれて、より現実的な不安に移っている。

図表-6 働く上で不安なこと（複数回答）



大学生の声



大学院 1 回生

コロナ前に比べると部サークルの数は減っている。残っている組織も活動は縮小している。①コロナ下で活動への参加者が減ったこと、②3、4回生の代の入部者が少なかったことが理由。運営ノウハウや文化の継承ができず活動をやめたサークルは多い。



3 回生

コロナ下のオンライン授業は友人が作りにくい面もあったが、一人で行動している人も多く、逆に気楽な面もあった。



1 回生

部サークルの勧誘や新入生オリエンテーションなどイベントがたくさんあったので、友人作りには全く困らなかった。



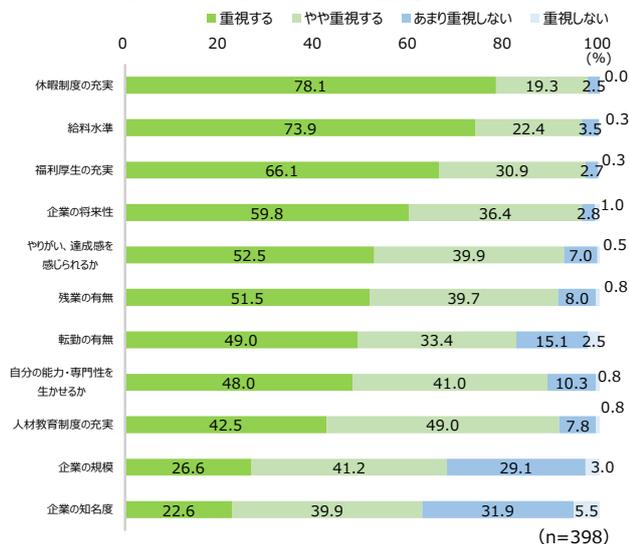
3 回生

キャンパスは下級生の頃に比べれば、人も多くかなり活気が出てきた。2023 年度に入ってかなり雰囲気は変わってきたと思う。

(2) 就職する際に重視すること

就職する際に重視することは、「休暇制度の充実」(78.1%)「給料水準」(73.9%)の割合が高い(図表-7)。一方、「企業の規模」(26.6%)「企業の知名度」(22.6%)はあまり重視されていない。

図表-7 就職する際に重視すること

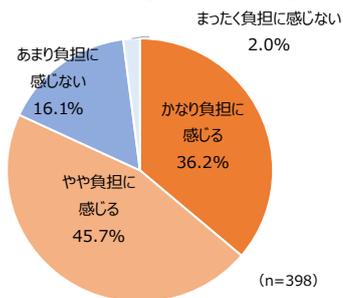


4. 消費について

(1) 物価上昇の影響

物価上昇の影響は、81.9% (「かなり負担に感じる」+「やや負担に感じる」)が物価上昇を負担に感じている(図表-8)。

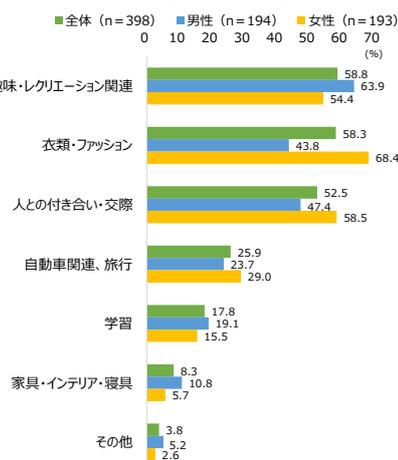
図表-8 物価上昇の影響



(2) 学生の間にお金をかけたいこと

学生の間にお金をかけたいことは、全体では「趣味・レクリエーション関連」(58.8%)が最も多く、「衣類・ファッション」(58.3%)、「人との付き合い・交際」(52.5%)と日常に近い項目が続く(図表-9)。「自動車関連、旅行」は25.9%にとどまり、学生が非日常にお金をかけるほどの解放感を感じていない。

図表-9 学生の間にお金をかけたいこと

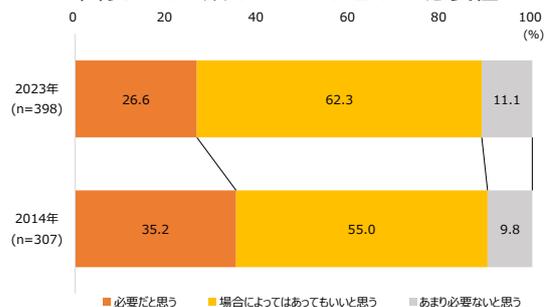


(3) お酒に対する意識

飲みニケーション (お酒を飲みながらの交流) の必要性

「飲みニケーション」の必要性をたずねたところ、88.9% (「必要だと思う」+「場合によってはあってもいいと思う」)の学生が感じていた(図表-10)。2014年調査の90.2%と同水準であった。そのうち、「必要だと思う」の割合(26.6%)は2014年(35.2%)から約10ポイント低下している。コロナ下で飲み会の経験が少なかったことが要因と思われる。

図表-10 飲みニケーションの必要性



おわりに

2023年度はコロナ流行と同時期に入学した4回生をはじめ、すべての学年でコロナ流行後の入学生となった。制限が多い生活を過ごし、コロナの5類移行後も、旅行などの非日常にお金をかけるほどの解放感を感じておらず、「飲みニケーション」を必要と感じる割合も低下するなど、コロナ下の生活の影響が残っている一面も垣間見えた。(三浦 直也)